

小学校・交流に関わる体験活動 伸びよう やさしく たくましく

－ 奈良県吉野郡川上村立川上東小学校及び川上西小学校との交流教育を通して－

和歌山県和歌山市立加太小学校

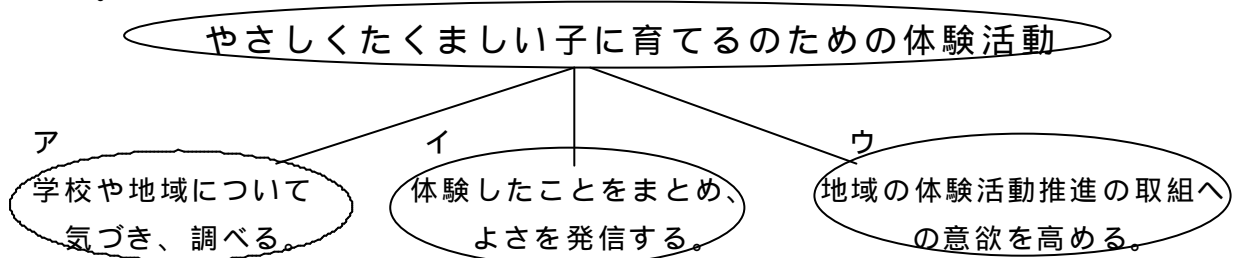
1 はじめに

紀淡海峡に浮かぶ「友ヶ島」周辺を最高の釣り場とする加太の漁業は「鯛の一本釣り」で有名である。周辺の潮の流れがよいためと聞いている。

子どもたちは、磯や浜・海・山の自然の幸を得て元気に暮らしている。漁師さんや地域の人々、保護者の学校への熱心な応援のおかげであると思われる。

2 取組のねらいや内容（交流体験活動）

奈良県吉野の山に降った雨水が源流となり吉野川をなし、和歌山県に入って紀ノ川の名で海にたどり着く。この流れの最上流域にある2小学校（吉野郡川上村立川上東小学校と川上西小学校）と最下流域にある本校が互いに異なる自然や生活環境、多くの人々との触れ合いを通し、子どもたちのやさしさやたくましさを育てることをねらう活動である。



3 教育課程上の位置付け

全学年・・・加太っ子祭り あさり採り etc

低学年・・・魚つかみ「生きた魚を捕まえよう。」 テングサ採り etc

高学年・・・栽培漁業センター協力の「稚魚の放流」 漁師による釣り指導 etc

< 5年生の活動例 >

1 学期	社会科や特別活動で川上村の林業や紀ノ川・吉野川、加太の漁業を調べる。加太の浜であさり採り及び清掃活動、稚魚の放流体験等により加太の漁業について学習する。
2 学期	川上村立川上東小学校及び川上西小学校と交流をする。「加太っ子祭り」を盛り上げる。
3 学期	加太の自慢をまとめる。

4 活動の概要（工夫・苦労など）

川上村立川上東小学校及び川上西小学校5・6年生（31名）が加太を訪問

平成14年7月22日～23日

子どもの願いを生かした活動計画 「仲よくなりたい。海釣りを教えてもらいたい。」

・川上東小及び川上西小と加太小がいっしょに加太の海岸



で魚釣りをする。

- ・一緒に「友ヶ島」へ船で渡り、磯遊びや釣り、島巡りをする。

加太小学校が川上村を受け入れるに当たり、日程などを調べ、計画する。

- ・困った！ 気が付けば釣りを知っている加太の子は少ない。どうしよう。
- ・そうだ！加太の漁師さんをお願いして釣りを教えてもらおう。
- ・一本釣りの針を川上村から持参というが、さびきの釣り針も用意しておこう。
- ・えさは何がよいか。 ・何時ごろがよく釣れるのだろう。
- ・漁業組合をお願いして安全な釣り場を提供していただこう。

加太小5年生(35名)が川上村を訪問 平成14年9月10日～11日

子どもの願いを生かした活動計画 「もっと仲良しに。川上村の森と川を楽しもう。」

- ・大滝ダム・森と水の源流館・学べるステーションの見学
- ・川原でバーベキュー
- ・山の散策(川上東小・川上西小と加太小が蜻蛉の滝に登り滝壺下流で遊ぶ)



集団で宿泊するのも他の学校の友達と一緒に行動することも初めての体験であり、子どもたちは各自の役割を果たす努力をした。

挨拶や食事、片づけの仕方なども身につけることが必要であるし、活動の中で我慢もしなければならなかったり歓迎の方法など新しいことを考えなくてはならなかったりして普段は小規模校にあって慣れた行動に終始していることが多い子どもたちが、視野を広げることができた。

川上村の数々の歓迎を受ける。

- 森のことなら何でも知る地元の長老の案内による指導を受ける。
- 「必要もなく森の木や花を切り取らないのです。森を大事にしているのですよ。」

5 活動の評価方法

ア「学校や地域について気づき、調べる」についての評価

主体的な学習態度	加太や川上村について興味関心を持ち、いろいろな方法で課題を追求できたか。	・インターネットで ・本で ・文通で ・漁師さんや家族に etc
問題解決の能力	自分を取り組みたい課題を設定できたか。	・源流から下流までの川の生態を調べたい。 ・なぜ「森は海の恋人」というのか。 ・なぜ魚が減っているか。 ・浜のゴミはなぜ減らないか。 etc
	意欲的に体験活動に取り組めたか。	・調べ学習 ・グループでの役割 ・川遊びや森での活動 ・海での活動 etc

イ「体験したことをまとめ、よさを発信する」についての評価

表 現 す	感動体験により次への活動への意欲を高めることができたか。	・釣れない子どもがほとんどないほど、漁師さんにていねいに教えてもらえた。釣りを楽しもうよ。 ・蜻蛉の滝のあまりの美しさに途中のわき水を水筒に
-------------	------------------------------	---

る 力		入れて家へお土産にした。森の力について調べたい。 ・森と水の源流館に資料がたくさんある。
・ コ ミ ユ ニ ケ ー シ ヨ ン 力	子ども一人一人がふるさと加太のよさをどのように発信することができたか。 (学校間交流を繰り返すことにより加太を大事にした意識が芽生え、加太に伝わる祭りをきちんとやっていくことが大事だとの思いの高まりに加えて)	・「加太っ子祭り実行委員会」に進んで立候補することができた。 ・企画ができた後、次に、自分たちが低学年に「加太っ子祭りニュース」を発行し、運営の状況を知らせる取組を考え出した。 ・みこしを作るボランティアを募ることを提案実行できた。 ・伝統の「加太えび祭り」の獅子舞を演じる方法を考え合う。獅子舞や笛は加太地区各丁の技を受け継ぎ6年生が5年生以下に自信を持ち伝承した。 ・祭りの準備から本番まで粘り強く活動した。
自 己 の 生 き 方 を ふ り 返 る 力	体験についてまとめ、これからの課題を持つことができたか。	・水の美しさを体感できた。紀ノ川の源流となる川上村の人々が「川上宣言」において森と川を大切に守り続ける努力をしていることがわかった。 ・「ここが紀ノ川の源流なのだ。下流域でも水を大事にしよう。」の意識を強く持つことができた。 ・加太の海をもっときれいにして「加太はきれい。」といってもらうにはどうすればよいか考えた。 ・加太の海で昔みたいに魚がいっぱい採れるようになってほしい。方法をさぐりたい。 ・加太の和歌山県北部栽培漁業センターを見学し稚魚の放流もできた。強烈な体験であった。できればもっと色々な魚の子どもを育ててもらって魚を増やしたい。 ・学校でも加太の魚を食べたい。 ・6年生の交流でまた釣りをしたい。川上村の子と一緒に釣りを楽しみたい。

ウ「地域の体験活動推進の取組への意欲を高める」についての評価

学 び 方	加太の歴史に興味を持つことができたか。	・学校開放週間に「ようこそ先輩」の授業を受ける。講師は加太の古老。「友ヶ島」と「淡島神社」に関わる話であった。地域の歴史に興味を持つことができた。
・ の 考 え 方	加太の漁業、川上村の林業に興味を持つことができたか。	・稚魚の放流や漁師さんの話にこれからの漁業について考えることができた。 ・あさり採りや浜の清掃について考えることができた。 ・森の話に興味を持ち、林業を考えることができた。 ・ふるさとを再発見した。アピールしていきたい。
	加太の自慢に関心を持つことができたか。	・「加太の幸を使って料理をしましょう。」と保護者の声。さざえのすし料理を体験できてうれしい。

6 学校支援委員会の組織・運営

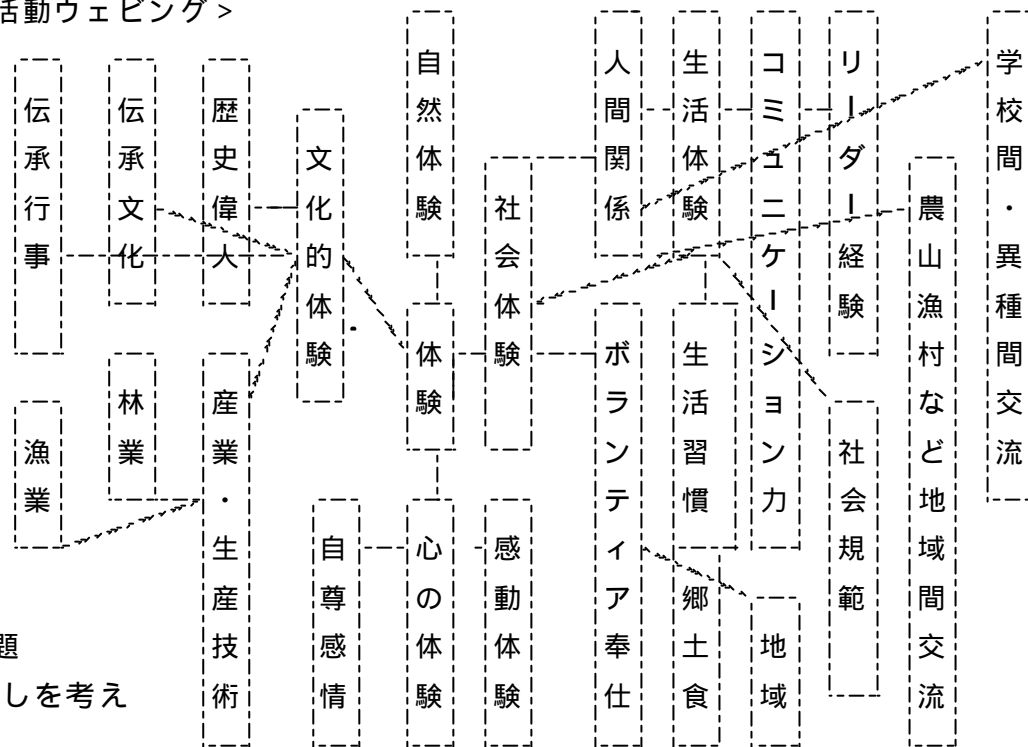
組織・・・学校評議員を中心とする地域の代表による組織

運営・・・体験活動の場や機会の開拓などを協力

7 活動の成果

川上村と加太、そして、両者を繋ぐ吉野川及び紀ノ川、つまり、点と点を線でつなぐことにより、さまざまな体験を通してお互いの地域のよさや課題に気がついたようだ。体験活動を広げることにより学校を変えていく力も育ちつつあると喜んでいる。

<広がる体験活動ウェビング>



8 今後の課題

加太の暮らしを考える

加太の産業・漁業は単なる楽しみの釣りとは全然違っているはずである。魚が採れなければ明日の糧が得られない。「生活する」という視点で地域の暮らしを考えれば、加太の地域や漁業にも幾つかの課題を見つけることができる。

加太の暮らしについて子どもたちに納得のいくまでしっかり考えさせるためにはどんな活動や教科につなげればよいか、長期にわたるスパンで考えていきたいと思う。児童の自発的な活動を促す

例えば、浜の清掃に目を向ければ、これまでは「あさり採りの後、掃除をして下さい。」と教師が一方的に指示していたものを、「ぼくたちが掃除をします。」に変容させていきたい。さらには、加太中学校や地域の人々へと連携を広げて清掃活動をする事も考えられる。漁業組合や公民館、自治会などの願いも聞かせてもらって、地域の活動の一部に位置付けられた清掃活動として続けることも考えられる。

地域の方に学校にどんどん来ていただく

子どもたちの活動に関連した地域の情報もたくさんもらい、学校教育に生かして発信もしていきたい。加太の皆で、やさしくたくましい子に育てたいものである。